

オープンキャンパスと「公開ゼミナール」

8月1日に人文社会学部でオープンキャンパス(大学説明会)が実施される。大学や学部をとりまく「状況」に対応して、初めての試みとして午前と午後の2回、それも「説明」よりも施設案内や各種「催し」を重視して企画された。幸いなことに、申し込みが殺到して、担当の一人として嬉しい悲鳴をあげている。

私が所属する現代社会学科では学科案内とともに、研究室公開や公開ゼミなどの「催し」をおこなう。公開ゼミは私が提案したこともあり、ゼミ生に相談して(たのみこんで?)実施することになった。夏休みにもか



かわらず、多くのゼミ生が参加してくれそうだ。わがゼミにつづいて、堀江ゼミでも実施することになり喜んでいる。

さて、どのように公開ゼミをおこなうか。「おかしなゼミナール」と名づけて、日ごろの「わざ」を駆使して楽しいゼミにしたいと思うが、どうなることやら。

ゼミ生と相談して、テーマを一応「地域から現代社会を考える」とすることにした。どこかで聞いたようなテーマだが、これは5月のレポートでも紹介したように、私が担当した教養のテーマ科目の題名である。昨年、県立岐阜高校で担当した私の「総合学習」のテーマでもある。

グローバル化と分権化、そして市場化がすすむ複雑な現代社会について、足もとの地域と生活レベルから問題を具体的に考えていくというものだ。教養の講義においても、毎回ビデオを使ったりして、地域から現代日本社会の諸相について問題を具



体的に提起してきた。講義の最後に書いてもらった「感想」によると、とくに興味をもったテーマは公共事業と市町村合併であった。私もいま最も関心のあるテーマなので、講義の熱っぽさが学生に伝わったかもしれない。

公開ゼミでも、公共事業と市町村合併に焦点をあて、受験生の皆さんを交えて「地域から現代社会を考える」ことができればと思う。

(7月29日記)